

令和2年8月版

那覇港管理組合の取り組み (物 流)



Naha Port Authority

TEL : 098-868-2582 (みなと振興課)

E-mail : kumiai@nahaport.jp

<http://www.nahaport.jp/>

那覇港管理組合 企画建設部 みなと振興課

那覇港の全景

陸域：約600ha 海域：約3,200ha



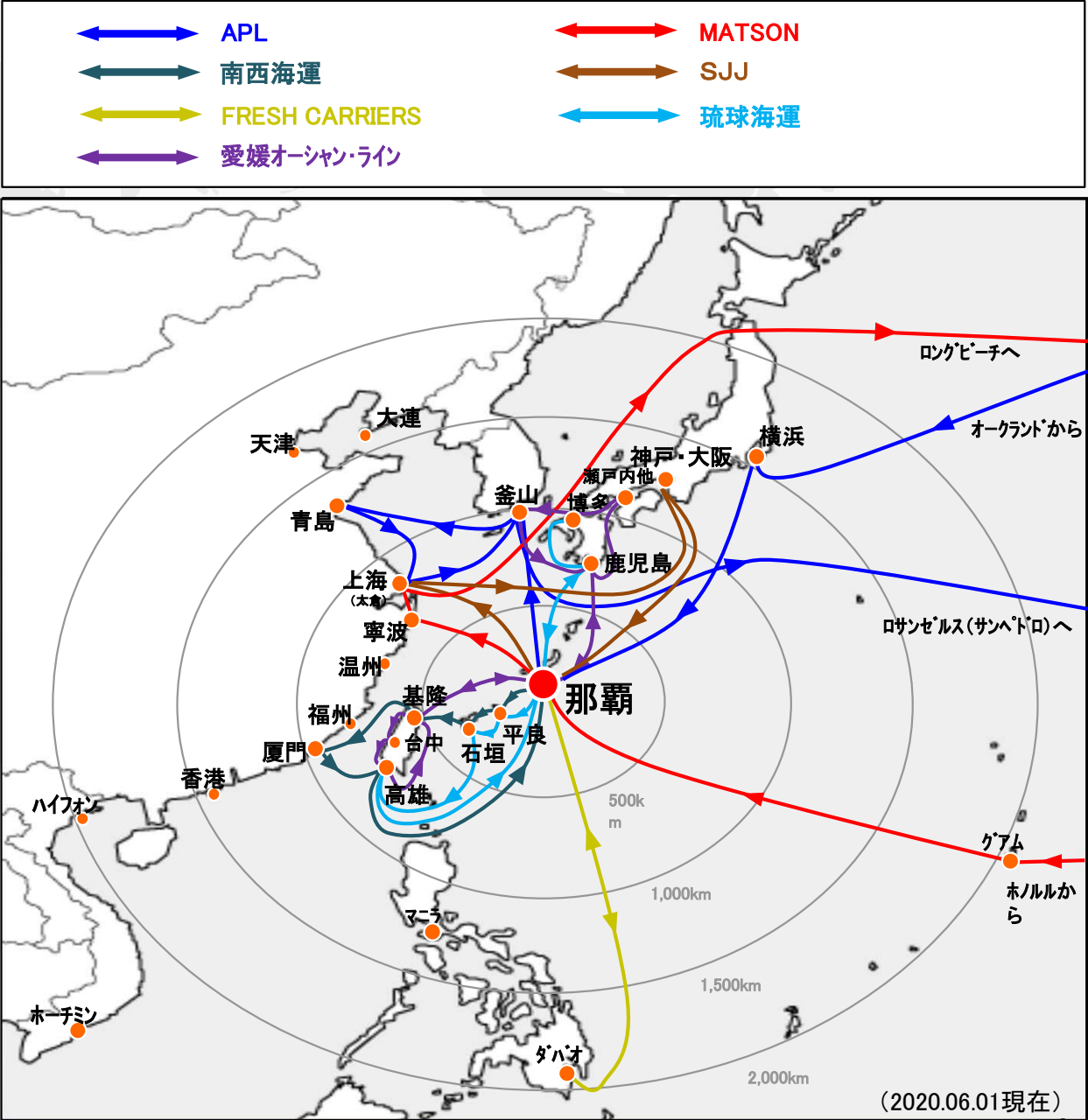
国際流通港湾としての位置づけ

- **県内重要港湾6港**の取扱貨物量（公共貨物）のうち、**那覇港**が占める割合は、内国貿易が**約8割**、外国貿易が**約9割**
- **那覇港と那覇空港の取扱貨物量**で、**那覇港**が占める割合は、**約97%**（2018年）
- 外貿・内貿コンテナの総取扱量は、598,020TEUであり、**我が国第7位**（2018年）
- 外貿コンテナ取扱量は、86,494TEUであり、**我が国第17位**（2018年）
- 内貿コンテナ取扱量は、511,527TEUであり、**我が国第3位**（2018年）

那覇港の定期航路(国外)

・外貿定期航路は、台湾、北米、中国、韓国、フィリピンを結ぶコンテナ航路が就航（7航路）

区分	寄港地 ※赤字は最終港 ※（ ）は不定港	船名	船種	寄港頻度	接岸岸壁	所要時間	那覇港出港曜日							船社
							月	火	水	木	金	土	日	
北米	ロサンゼルス（サンパドロ）ーオークランドー横浜ー那覇ー釜山ー青島ー上海ー釜山ーロサンゼルス（サンパドロ）	PRESIDENT KENNEY他	フルコン	1/週	新港10	13D						●		APL
	ロングビーチーホノルルーアブラクグアムー那覇ー寧波ー上海ーロングビーチ	MAUNA AWILI他	フルコン	1/週	新港10	36H						●		MATSON
中国	上海ー大阪ー神戸ー那覇ー上海	MILD JAZZ他	フルコン	1/週	新港9	96H						●		SJJ
アジア	ダバオくフィリピンー那覇ー（博多）ー（神戸）ーダバオくフィリピン	PROCYON	冷凍コンテナ	1/2週	新港9	72H						●		FRESH CARRIERS
台湾・東南アジア	※先島航路の延長 那覇ー平良ー石垣ー高雄ー那覇ー鹿児島ー博多ー鹿児島ー那覇	みやらびII	RORO船	1/週	新港7	36H	●					●		琉球海運
	※先島航路の延長 那覇ー平良ー石垣ー厦門ー高雄ー那覇ー平良ー石垣	せつ丸	一般貨物船	1/週	新港1・10	93H	●							南西海運
	台中ー高雄ー基隆ー那覇ー志布志ー松山ー広島ー大分ー釜山ー薩摩川内ー那覇ー基隆ー台中ー高雄	MYRIAD他	フルコン	2/週	新港9	14D						●●		愛媛オーシャン・ライン

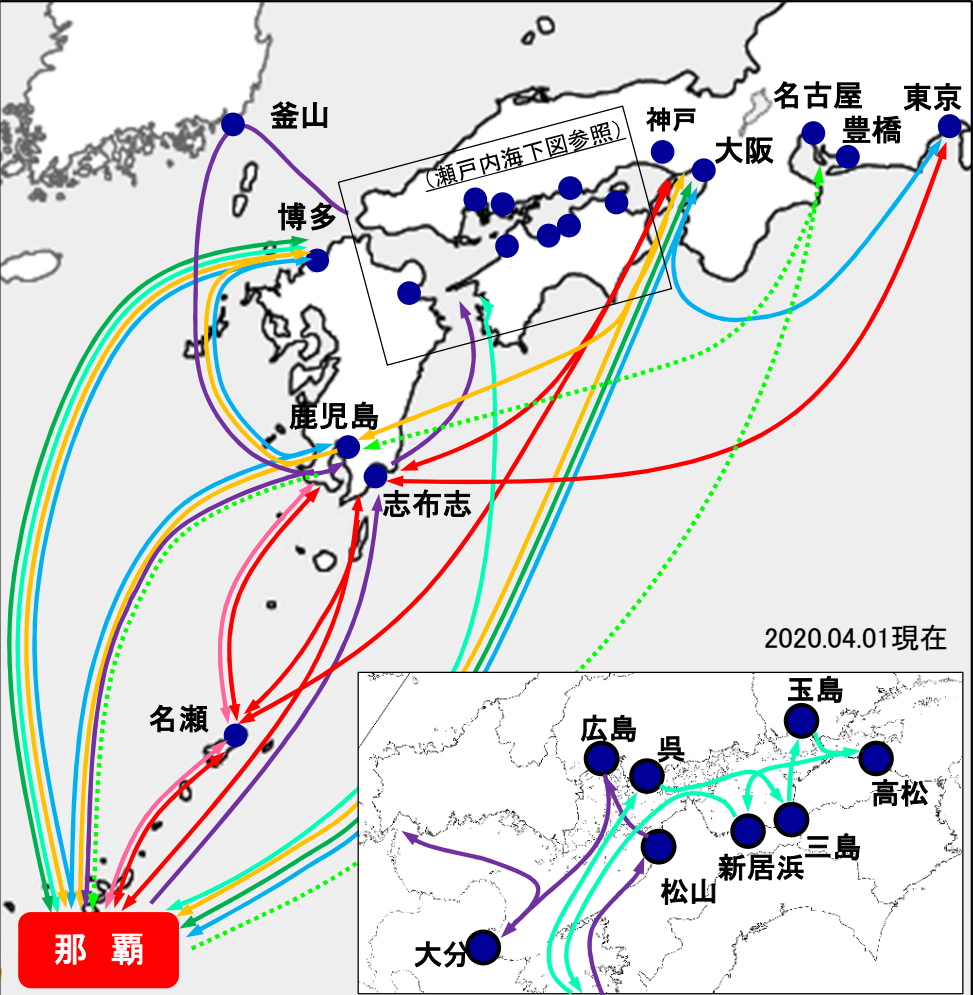
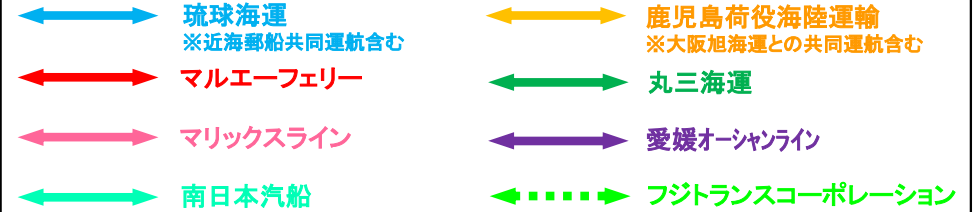


※所要時間は、那覇港発～最終港着までの所要時間であり、途中寄港地での停泊時間も含む

那覇港の定期・不定期航路(県外)

・県外は、東京、名古屋、大阪、神戸、名古屋、博多、鹿児島等を結ぶRORO船、一般貨物船等が就航（20航路）。

区分	寄港地 ※赤字は最終港 ※（ ）は不定期	船名 ※青字は旅客も対応	船種	寄港頻度	接岸岸壁	所要時間	那覇港 出港曜日							船社
							月	火	水	木	金	土	日	
東京	那覇—大阪—東京—大阪—那覇	しゅり	RORO船	1/週	新港4・7	85H				●				近海郵船
	那覇—中城—大阪—東京—大阪—那覇	にらいかないII	RORO船	1/週	新港5・6	64H	●							琉球海運
	那覇—本部—大阪—東京—大阪—那覇	しゅれいII	RORO船	1/週	新港6・7	63H						●		琉球海運
	那覇—志布志—東京—（名古屋）	琉球エクスプレス5	RORO船	3/2週	新港5・7	45H	●		●	●	●			マルエーフェリー
	—志布志—那覇	琉球エクスプレス3	RORO船	3/2週	新港5・7	45H	●		●	●	●			マルエーフェリー
名古屋	那覇—名古屋—豊橋—鹿児島—那覇（不定期）	ふがく丸	自動車運搬船	1/4日	新港5・6・7	36H								フジトランスコーポレーション
大阪	那覇—大阪—那覇	うりすん	一般貨物船	1/週	浦添1・2	40H	●							鹿児島荷役海陸運輸
	那覇—大阪—鹿児島—那覇	りゅうせい	一般貨物船	1/週	浦添1	37H			●					鹿児島荷役海陸運輸
	那覇—（伊予三島）—大阪—那覇（不定期）	うりすん21	RORO船	1/週	浦添1	38H			●					丸三海運
	海風	一般貨物船	3/2週	浦添7	40H	●			●	●	●			丸三海運
	海邦2	一般貨物船	3/2週	浦添7	40H	●			●	●	●			丸三海運
	ゆいまる	一般貨物船	1/週	浦添6	88H	●								丸三海運
	那覇—志布志—大阪—志布志—那覇	琉球エクスプレス6	RORO船	1/週	新港5・7	41H				●				マルエーフェリー
神戸	那覇—大阪—那覇	第十五旭丸	一般貨物船	1/週	新港3	53H	●							大阪旭海運
瀬戸内	那覇—名瀬—志布志—大阪—神戸—大阪—志布志—名瀬—那覇	琉球エクスプレス2	RORO船	1/週	新港5・7	42.5H	●							マルエーフェリー
	那覇—呉—三島—玉島—高松—新居浜—愛媛—那覇	りゅうなんⅢ	一般貨物船	1/週	浦添5	93H	●							南日本汽船
	[台中—高雄—基隆]那覇—志布志—松山—広島—大分—[釜山]—薩摩川内—那覇—[基隆—台中—高雄]	MYRIAD他	フルコン	2/週	新港9	14D					●	●		愛媛オーシャン・ライン
博多	那覇—博多—那覇	ちゅらしま	RORO船	2/週	新港6・7	24.5H	●				●			琉球海運
		わかなつ	RORO船	2/週	新港6・7	26H			●		●			琉球海運
		うりすん	一般貨物船	1/週	浦添1・2	27H					●			鹿児島荷役海陸運輸
		りゅうせい	一般貨物船	1/週	浦添3	41H	●							鹿児島荷役海陸運輸
		りゅうなん	一般貨物船	2/週	浦添1・3	29H					●		●	南日本汽船
		みーかじ（不定期）	一般貨物船	3/2週	浦添8	64.5H	●			●	●			丸三海運
		なは2（不定期）	一般貨物船	3/2週	浦添8	64.5H	●			●	●			丸三海運
	那覇—鹿児島—博多—鹿児島—那覇	みやらびII	RORO船	1/週	新港7	36H	●							琉球海運
鹿児島	那覇—鹿児島—博多—那覇	勇王丸	RORO船	1/週	新港4	39H			●					琉球海運
	那覇—博多—鹿児島—那覇	うりすん21	RORO船	1/週	浦添1	28H						●		鹿児島荷役海陸運輸
	那覇—運天—鹿児島—那覇	隆山丸	一般貨物船	1/週	浦添2	48H						●		琉球海運
	那覇—鹿児島—那覇	勇王丸	RORO船	1/週	新港4	19H	●							琉球海運
		かりゆし	RORO船	1/週	新港6・7	38H						●		琉球海運
	那覇—本部—与論—和泊—亀徳—名瀬—鹿児島—名瀬—亀徳—和泊—与論—本部—那覇	フェリー—あけぼの フェリー—波之上	フェリー	1/4日	那覇2	25.5H								マルエーフェリー
		フェリー—波之上	フェリー	1/4日	那覇2	25.5H								マルエーフェリー
		フェリー—波之上	フェリー	1/4日	那覇2	25.5H								マルエーフェリー



※所要時間は、那覇港発～最終港着までの所要時間であり、途中寄港地での停泊時間も含む

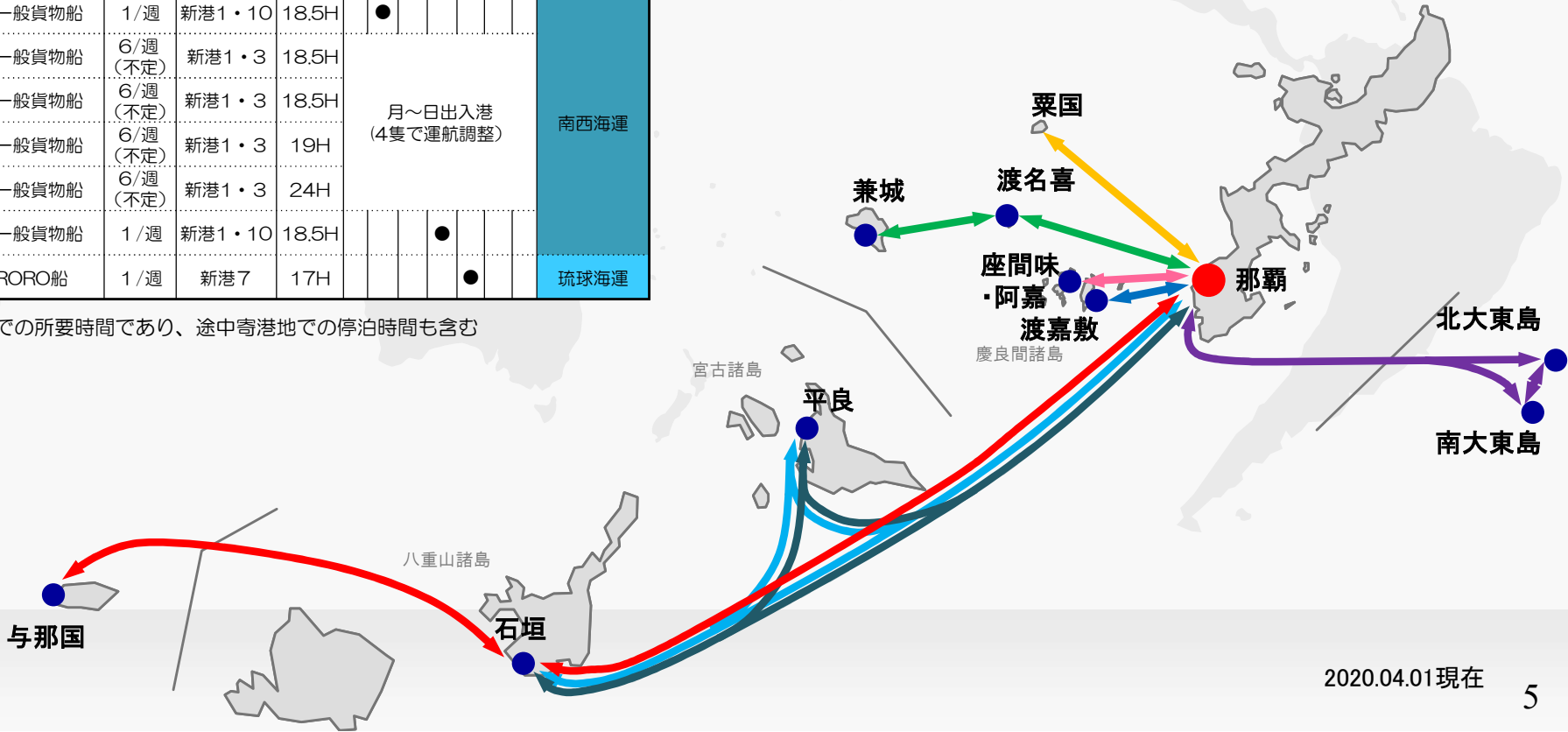
那覇港の定期航路(県内)

・県内は、先島を結ぶRORO船・一般貨物船(5航路)、周辺離島を結ぶフェリー・高速船(5航路)が就航(計10航路)

区分	寄港地 ※赤字は最終港 ※○は不定港	船名 ※青字は旅客も対応	船種	寄港頻度	接岸岸壁	所要時間	那覇港出港曜日							船社
							月	火	水	木	金	土	日	
先島	那覇ー石垣ー那覇	陽光丸	一般貨物船	6/月	新港1	19H					●			崎原海運
		かりゆし	RORO船	1/週	新港6・7	16.5H			●					琉球海運
		第28盛山丸	一般貨物船	2/週	新港4・6	20H		●					●	琉球海運
	那覇ー石垣ー与那国ー那覇	陽光丸	一般貨物船	3/月	新港1	39H	●							崎原海運
		第28盛山丸	一般貨物船	1/週	新港4・6	13H					●			琉球海運
	那覇ー平良ー那覇	第2優昭丸	一般貨物船	2/週	新港4・6	15H		●					●	琉球海運
		ちゅらしま	RORO船	1/週	新港6・7	16H			●					琉球海運
		かりゆし	RORO船	1/週	新港6・7	16.5H	●							琉球海運
	那覇ー平良ー石垣ー那覇	第2優昭丸	一般貨物船	1/週	新港4・6	22H					●			琉球海運
		せつ丸 (※国外航路あり)	一般貨物船	1/週	新港1・10	18.5H		●						南西海運
		よね丸	一般貨物船	6/週 (不定)	新港1・3	18.5H	月～日出入港 (4隻で運航調整)							南西海運
		なんせい丸	一般貨物船	6/週 (不定)	新港1・3	18.5H								
		ちよ丸	一般貨物船	6/週 (不定)	新港1・3	19H								
		はりみず	一般貨物船	6/週 (不定)	新港1・3	24H								
	那覇ー平良ー石垣	せつ丸 (※国外航路あり)	一般貨物船	1/週	新港1・10	18.5H					●			南西海運
		みやらびII (※国外航路あり)	RORO船	1/週	新港7	17H						●		琉球海運

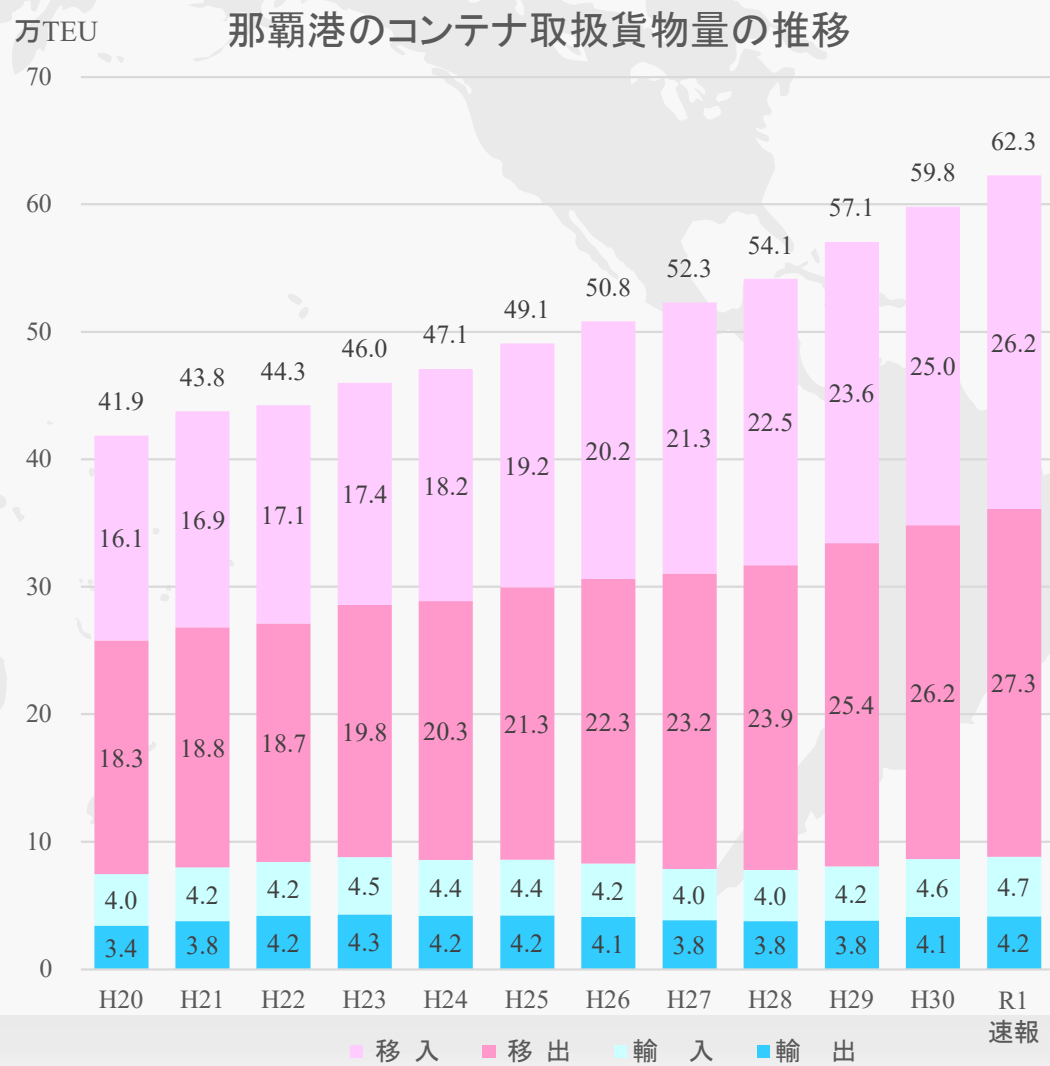
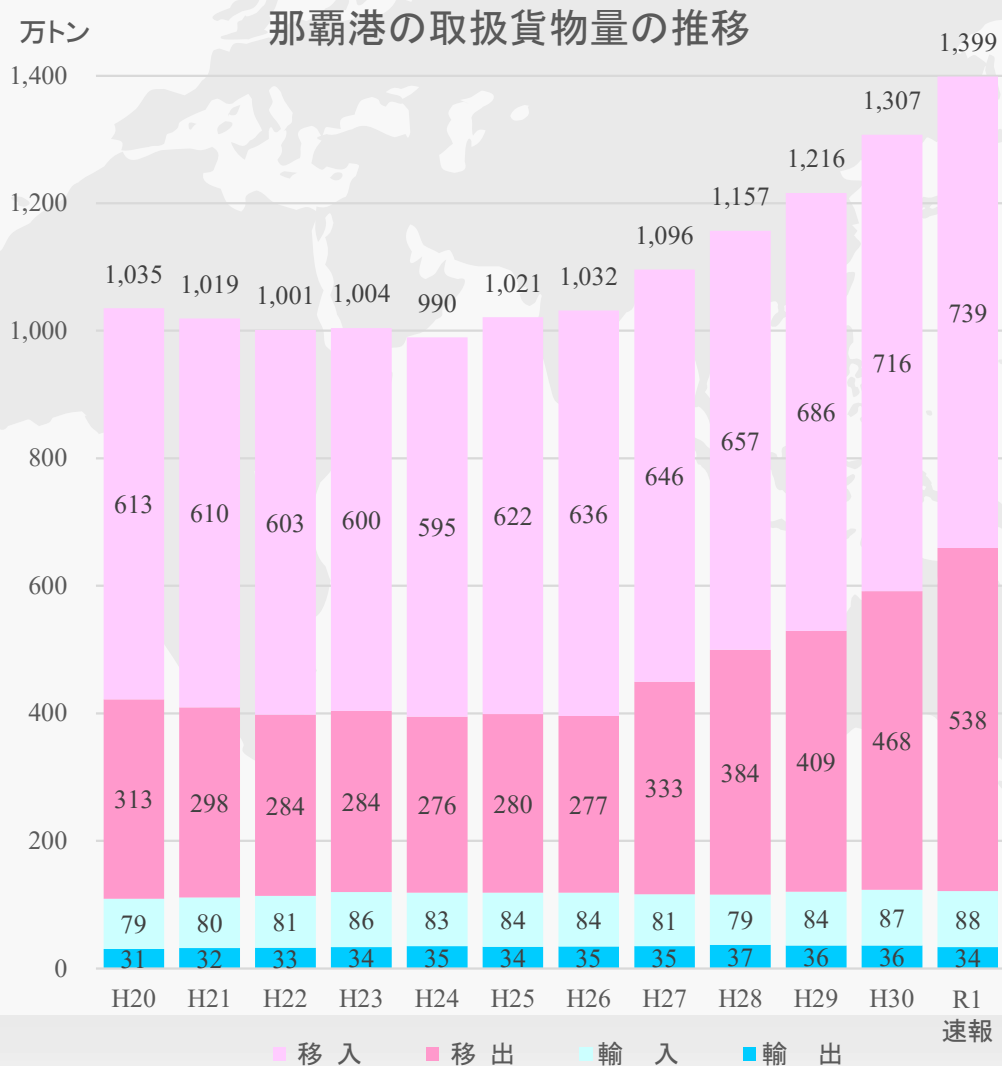
区分	寄 港 地 ※赤字は最終港 ※（ ）は不定港	船 名 ※青字は旅客も対応	船 種	寄港 頻度	接岸 岸壁	所要 時間	那覇港 出港 曜日	船 社	
周辺離島	那覇ー阿嘉ー座間味 ー阿嘉ー那覇	フェリーざまみ3 クィーンざまみ3	フェリー 高速船	1/日 2/日	泊6 泊7	2H 1H	毎日	座間味村	
	那覇ー渡嘉敷ー那覇	フェリーとかしき マリンライナーとかしき	フェリー 高速船	1/日 2/日	泊5 泊7	1H 35M			
	那覇ー栗国ー那覇	フェリー栗国	フェリー	1/日	泊3	2H		栗国村	
	那覇ー渡名喜ー兼城 ＜久米島＞ー渡名喜 ー那覇	フェリー琉球 ニューくめしま	フェリー フェリー	1/日 1/日	泊2 泊2	4H 4H		久米商船	
	那覇ー北大東島・南 大東島ー那覇	だいとう	貨客船	6/月	泊1	16.5H			不定

※所要時間は、那覇港発～最終港着までの所要時間であり、途中寄港地での停泊時間も含む



那覇港取扱貨物量の推移

- ・那覇港の総取扱貨物量は、平成24年以降増加を続け、令和元年に過去最高の1,399万トン記録。
※平成27年以降の内貿貨物量(特に移出)の伸びが顕著。
- ・内貿コンテナ取扱量は534,494TEU、外貿コンテナ取扱量は88,126TEU。
- ・コンテナ取扱貨物量も増加を続け、令和元年に過去最高の62.3万TEUを記録。



7

台湾TIPCとのパートナーシップ港に関する 合意書(MOU)の締結

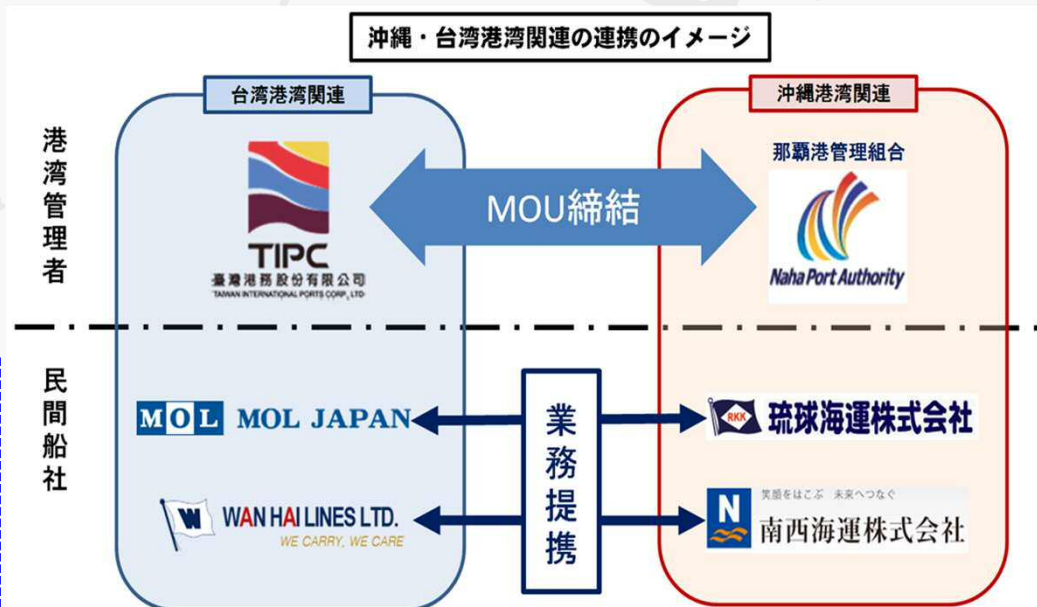
平成27年4月21日に台湾高雄市において、台湾の主要港(高雄港、基隆港等)を管理運営する台湾港務株式会社(TIPC)と那覇港管理組合との間で、物流及び人流に関する交流を促進させ、相互理解と長期的な提携関係強化を図るため「パートナーシップ港に関する合意書(MOU)」を締結しました。

【MOU締結の合意内容】

1. 便利で良質な人流、物流サービスの提供に共同で努める。
2. 両港湾間における物流サービス等の向上に取り組む。
3. 海運に関する情報交流の強化、共有に取り組む。
4. 人員の交流と人材育成に努める。
5. 地場産業等の交流や提携を促進させる

■台湾港務株式会社(TIPC: Taiwan International Ports Corporation)

- ①TIPCは、2012年3月1日に設立された台湾政府が全額出資する港湾運営会社である。
- ②設立以前は主要港湾に行政機関として港務局が置かれ、港湾運営の他、港湾業務行政・航路行政など複数の業務を担当してきた。この業務のうち、港湾運営についてはTIPCが行うこととなり国際港7港(高雄港、台北港、基隆港、他4港)と国内港2港を統括管理している。



合意書(MOU)締結後の経過

	時期	内容	備考
平成27年	4月21日	MOU締結	物流&クルーズ
	8月	APP(第102回太平洋港湾協会年次総会) 出席	物流&クルーズ
	11月	TIPCと進捗報告	物流&クルーズ
平成28年	4月30日	基隆市長他関係者の那覇市・那覇港訪問	クルーズ
	7月	2016 Asia Cruise Forum in 台中 登壇者として出席	クルーズ
	9月	意見交換会(中古車事業について)GHCF参加	物流
平成29年	1月	金城副管理者TIPC表敬訪問・会議 (県アジア課、琉海、OTK同行)	物流
	6月	Green Port and Port Safety Forum 2018 参加	物流&クルーズ
	12月	物流活性化セミナー開催に向けての調整(県アジア課同行)	物流
平成30年	5月	物流活性化セミナー開催に向けての調整(県アジア課同行)	物流
	9月	田原副管 TIPC訪問意見交換会 GHCF参加	物流&クルーズ
	11月12日	台湾・沖縄国際海上物流活性化セミナーin沖縄 開催	物流
	11月	沖縄クルーズカンファレンス	クルーズ
平成31年	3月	TIPC7周年記念式典 参加 (物流センター式典参加依頼について本社と調整)	物流
	4月25日	那覇港総合物流センター開業記念式典の招待 意見交換会	物流
令和元年	7月2日	TIPC来訪 意見交換会・那覇クルーズターミナル視察	クルーズ

貨物増大の取組（那覇港の課題解決に向けて）

那覇港における取扱貨物量増大の取組

那覇港輸出貨物増大促進事業（平成25年度～）

【船社対象の実証実験】

那覇港に新規寄港する船社を支援する「実証実験」により、新規航路開設・定着への課題や方策の検討を行う。
（平成29～33年度（予定））



ソフト事業

【輸出荷主対象の実証実験】

那覇港から輸出する荷主等を支援する「社会実験」により、輸送コストやリードタイム等を検証し、物流コストの低減や輸送システムの改善等の検討を行う。



貨物量の増加
新規航路の定着

相乗効果

○総合物流センター整備事業

貨物の増加、物流の効率化

○ガントリークレーン等整備事業

ハード事業

物流コストの低減・雇用の創出等

将来（長期）

国際物流拠点の実現（貨物の増大、物流の効率化、競争力強化）

令和2年度 事業スキームの概要

那覇港輸出貨物増大促進事業(荷主対象)

- 「那覇港輸出貨物増大促進事業(荷主対象)」とは、実証実験として、輸出貨物などを対象に補助を行うとともに、コストやリードタイム等を検証し、物流コストの低減や輸送システムの改善等の検討を行うものです。
- 輸出貨物全体に対する「全数への補助」と、前年比で増加した貨物に対する「増加分への上乗せ補助」を実施しています。
- 沖縄からの輸出が期待される中古車及び飲料食料品については別枠で整理し重点的に支援しています。

I. 基本メニュー (中古車、飲料食料品を除く)

全数への補助

【上限額】 混載貨物:10万円
コンテナ単位と自走貨物の合計:30万円

コンテナ貨物・小口混載貨物

令和2年度に輸出した貨物量(コンテナ及びM³単位)に対して補助します。

R2年度



増加分への上乗せ補助

【上限額】 混載貨物:15万円
コンテナ単位と自走貨物の合計:50万円

コンテナ貨物

コンテナ単位の増加分に対して補助します。

R元年度

R2年度



小口混載貨物

M³単位の増加分に対して補助します。

R元年度

R2年度



II. 中古車メニュー

全数への補助

【上限額】全数と増加分
合計:100万円

令和2年度に輸出した台数に対して補助します。



増加分への上乗せ補助

台数単位の増加分に対して補助します。



台湾貨物に対する上乗せ補助

台湾向け、台湾経由の輸出貨物には上乗せで補助します。



III. 飲料食料品メニュー

全数への補助

【上限額】コンテナ単位と
混載貨物の合計:80万円

飲料及び食料品 (コンテナ・小口混載)

令和2年度に輸出した
貨物量(コンテナ及びM³
単位)に対して補助しま
す。

令和2年度



香港貨物に対する上乗せ補助

香港着の飲料・食料品貨物には上乗せ
で補助します。(経由地は問いません)



令和2年度補助メニュー

那覇港輸出貨物増大促進事業(荷主対象)

I. 基本メニュー

【分類:A】一般貨物(「B中古車」及び「C飲料食料品」を除く)※

全数への補助

【1申請者または1委任者当たりの上限額】
コンテナ単位と自走貨物の合計:30万円
混載貨物:10万円

概要	貨物種類	補助金単価(/個、/M3)		
		種別	ドライ	リーファー
那覇港から輸出される一般貨物	コンテナ貨物	20ft	2,000円	6,000円
		40ft	3,000円	9,000円
		10ft・12ft	1,400円	4,200円
		混載/M3	400円	1,200円
	自走貨物	/M3	60円	—

増加分への上乗せ補助

【1申請者または1委任者当たりの上限額】
コンテナ単位と自走貨物の合計:50万円
混載貨物:15万円

概要	貨物種類	補助金単価(/個、/M3)		
		種別	ドライ	リーファー
前年比で増加した貨物	コンテナ貨物	20ft	10,000円	30,000円
		40ft	15,000円	45,000円
		10ft・12ft	7,000円	21,000円
		混載/M3	2,000円	6,000円
	自走貨物	/M3	300円	—
台湾向け又は台湾でトランシップする貨物	コンテナ貨物	20ft	15,000円	45,000円
		40ft	22,500円	67,500円
		10ft・12ft	10,500円	31,500円
		混載/M3	3,000円	9,000円
	自走貨物	/M3	450円	—

II. 中古車メニュー

【分類:B】中古車※

全数への補助

【1申請者または1委任者当たりの上限額】
全数への補助と増加分への上乗せ補助
合計:100万円

概要	貨物種類	補助金単価(/台)
①今後、継続して那覇港からの輸出が見込める中古車(トラックを除く)	コンテナ又は自走貨物	20,000円

増加分への上乗せ補助

概要	貨物種類	補助金単価(/台)
①前年比で増加した中古車(トラックを除く、また下記の②貨物を除く)	コンテナ又は自走貨物	10,000円
②前年比で増加した中古車(トラックを除く)かつ台湾向け又は台湾でトランシップする貨物		14,000円

【※適応条件】定期航路(コンテナ船、RORO船)により輸出される中古車が対象。自動車運搬船(PCC)等の不定期航路で輸出される中古車は対象外とする。

III. 飲料食料品メニュー

【分類:C】飲料食料品※

全数への補助

【1申請者または1委任者当たりの上限額】
コンテナ単位と自走貨物の合計:80万円
混載貨物:25万円

概要	貨物種類	補助金単価(/個、/M3)		
		種別	ドライ	リーファー
①(下記の②及び③貨物を除く)	コンテナ貨物	20ft	15,000円	45,000円
		40ft	22,500円	67,500円
		10ft・12ft	10,500円	31,500円
		混載	3,000円	9,000円
②台湾向け又は台湾でトランシップする貨物(下記の③貨物を除く)	コンテナ貨物	20ft	18,000円	54,000円
		40ft	27,000円	81,000円
		10ft・12ft	12,600円	37,800円
		混載	3,600円	10,800円
③香港着貨物	コンテナ貨物	20ft	21,000円	63,000円
		40ft	31,500円	94,500円
		10ft・12ft	14,700円	44,100円
		混載	4,200円	12,600円

【※適用条件】申請者単位で昨年輸出実績がコンテナ貨物で年間50TEU未満(ドライ・リーファー合計)かつ、混載貨物で年間250M3未満(ドライ・リーファー合計)であること。
また、当該メニューへの適用判断については、必要に応じて事務局において輸出許可通知書の統計品目番号を確認して判断する。

【※全メニュー共通留意事項】補助金額は当該事業の予算の範囲内において、事務局において決定する。補助金交付の対象は、交付決定通知以降の期間における輸出貨物とする。ただし、前年度比で増加した貨物(新規貨物を含む)に対する補助(増大貨物への補助:2階)については平成31年4月～令和2年3月及び令和2年4月～令和3年3月(1年間)を対象とする。

令和2年度 事業スキームの概要

那覇港輸出貨物増大促進事業(船社対象)

「那覇港輸出貨物増大促進事業(船社対象)」は、実証実験として那覇港における新規の国際航路の開設及び国際トランシップ貨物の取扱を行う外航船社に対し、その費用の一部を支援することにより、那覇港における航路の拡充と国際コンテナ貨物の増大を実現することを目的としています。

1-1. 那覇港への新規寄港による国際航路の開設

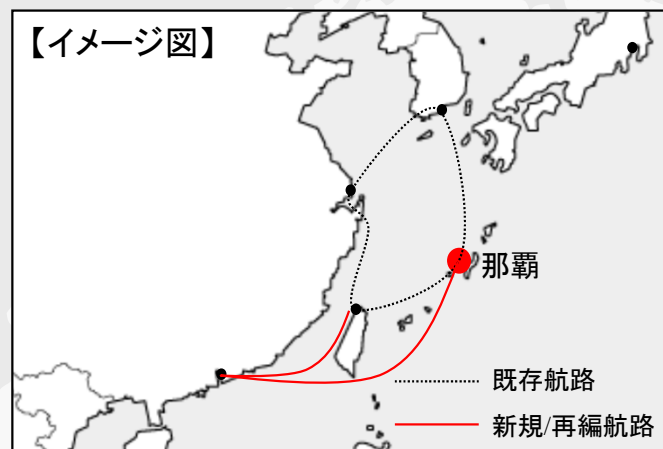


【支援内容】

支援対象		
那覇港への新規寄港による国際航路の開設		
支援実施者	支援内容	上限等
那覇港管理組合	・タグ、パイロット費用 ・綱取り/放し費用 ・燃料費等	1寄港当たり最大 150万円
NICTI	・新港9号・10号の岸壁使用料の免除(令和3年3月31日まで)	

【参考】想定される航路としては、現状、国外港から外貿貨物として本土港へ輸送され、本土港から内貿貨物として那覇港へ輸送される貨物について、国外港から外貿貨物として直接那覇港へ輸送できる航路などであるが、これに限らない。

1-2. 那覇港に寄港している航路の再編による那覇港と新たな寄港地を直接結ぶ国際航路の開設

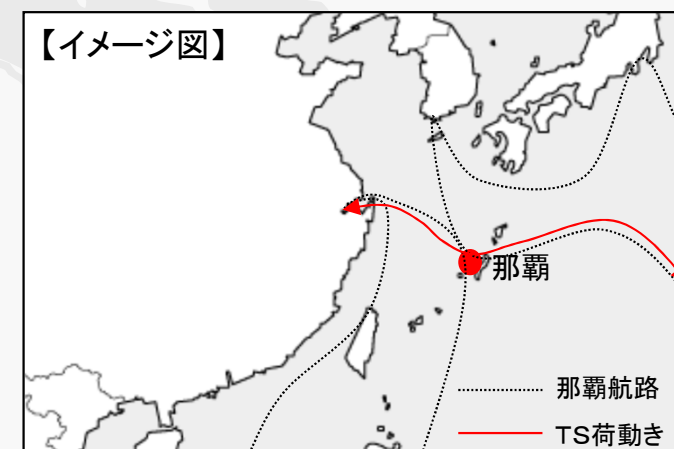


【支援内容】

支援対象		
那覇港に寄港している航路の再編により、他港を經由せずに那覇港と新たな寄港地を直接結ぶ国際航路の開設		
支援実施者	支援内容	上限等
那覇港管理組合	・タグ、パイロット費用 ・綱取り/放し費用 ・燃料費等	1寄港当たり最大 75万円 、左記経費の合計の1/2以内とする

【参考】想定される航路としては、現状、那覇港と航路ネットワークがない国外港について、既存航路再編により、新たに他港を經由せずに那覇港から直接輸送できる航路であるが、これに限らない。

2. 国際TSコンテナ貨物の取扱への支援



【支援内容】

支援対象		
異なる船舶間における国際トランシップ貨物の取扱		
支援実施者	支援内容	上限等
那覇港管理組合	・トランシップのコンテナ貨物 1本あたり 10,000円	1寄港当たり最大 50万円
NICTI	・コンテナ貨物1 TEUあたり 10,000円	1,000TEUまで

【参考】トランシップ貨物は、主にガントリークレーン等で船舶からヤードへの「揚げ」、ヤードでの「保管」、およびヤードから船舶への「積み」の作業が必要となる。これらの費用についてコンテナ貨物量(本数)に応じて支援を行う。

国際コンテナターミナルの施設整備事業の概要

ターミナル諸元	No.9	No.10
供用開始	平成9年8月	平成18年1月
岸壁延長	300m	350m
奥行き	350m	350m
計画水深(実水深)	13m (14m)	15m (15m)
面積	210,000㎡	

- 総合物流センター【第1期】
基本設計：3階建、専用区画面積約3.2ha)
- 本体工事平成30年度完成、令和元年5月開業

国内貨物取扱岸壁

総合物流センター
第3期予定地 2.2ha

総合物流センター
第2期予定地 3.0ha

総合物流センター
第1期 2.6ha

那覇港国際コンテナターミナル

リーファー電源施設
126口

No.10

No.9

ガントリークレーン整備事業（3号機、4号機）

- ガントリークレーン4号機
(オンデッキ6段×18列対応)
免震装置付
○平成27年5月供用開始

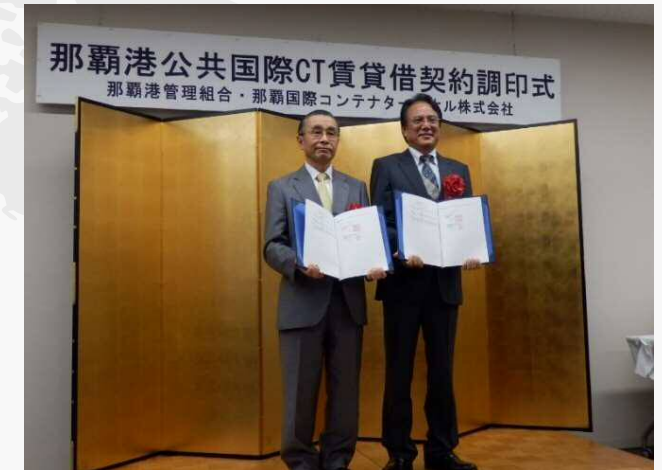
- ガントリークレーン3号機
(オンデッキ6段×18列対応)
免震装置付
○平成26年7月供用開始



平成27年1月24日撮影

新体制による那覇港公共国際コンテナターミナル運営事業

平成27年12月、那覇港管理組合は、国内外に幅広いネットワークを持つ国内有数の総合物流企業である三井倉庫株式会社が中核企業として参入した新NICTIと、平成28年1月から10年間の賃貸借契約を更新締結しました。



那覇港公共国際CT賃貸借契約調印式の様子 (H27年12月22日)
左: 田原口 誠 NICTI 代表取締役社長
右: 金城 勉 那覇港管理組合 常勤副管理者

新NICTIとの賃貸借契約の概要

- 賃借人 : 那覇国際コンテナターミナル株式会社 (NICTI : Naha International Container Terminal Incorporation)
中核企業 : 三井倉庫株式会社
- 契約期間 : 平成28年1月1日～平成37年12月31日 (10年間)
- 目標取扱貨物量 : 25万TEU

○ 那覇港公共国際コンテナターミナル運営事業

(事業の概要)

沖縄振興計画に位置づけられた「民間主導による自立経済の構築」を支援するため、那覇港新港ふ頭地区の9号及び10号ターミナルを、一体的に運営可能な能力を有する民間企業に長期貸付け、事業者の創意工夫による効率的な運営により、国際競争力の向上を図り、国際海上輸送コストの低減や航路誘致による産業立地、雇用拡大を実現することを目的としたプロジェクトです。

(事業の目標)

- ◆ 那覇港公共国際コンテナターミナルの整備促進及び利用効率の向上を図り、国際競争力を高める。
- ◆ 那覇港公共国際コンテナターミナルの国際コンテナ貨物量の増大、海上運賃の低減を図る。

那覇港総合物流センター整備

○整備理念

那覇港総合物流センターは、本県の生活・産業関連貨物の大部分を占める港湾貨物を取り扱う那覇港において、集貨・創貨を促進することにより取扱貨物の増加を目指し、物流の高度化を図るとともに、流通加工等の新たな価値を生み出す付加価値型産業の集積を図る総合物流施設として整備するものである。

□那覇港総合物流センターの敷地は、那覇国際コンテナターミナルと国内貨物の取り扱い岸壁の間に位置していることから、国際物流機能の集積を促進する総合物流センターの建設に適した場所である。

国際コンテナターミナル

第1期建設地【約2.6ha】
令和元年5月開業

第2期予定地【約3.0ha】

第3期予定地【約2.2ha】

那覇港総合物流センター整備概要(第1期)

○整備主体: 那覇港管理組合

○事業期間: 平成25年度～平成30年度

平成26年度 : 実施設計

平成27～30年度: 建設工事

○施設概要 : 3階建、専有区画面積 約3.2ha
マルチテナント型

那覇港総合物流センター(第2・3期)
事業可能性調査中

国内貨物取扱岸壁

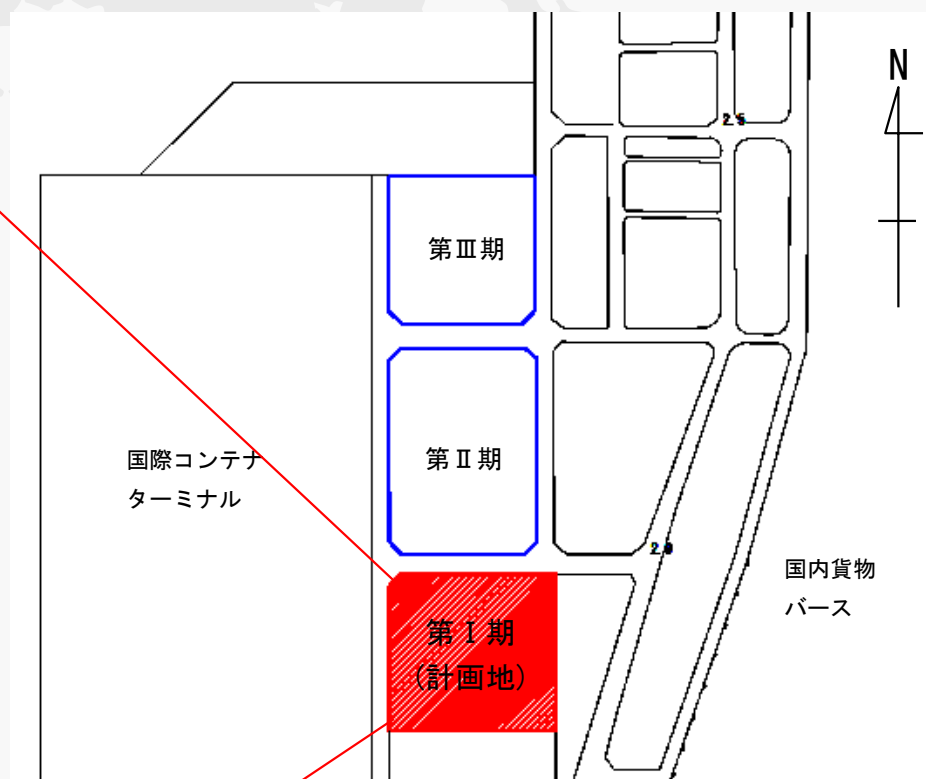
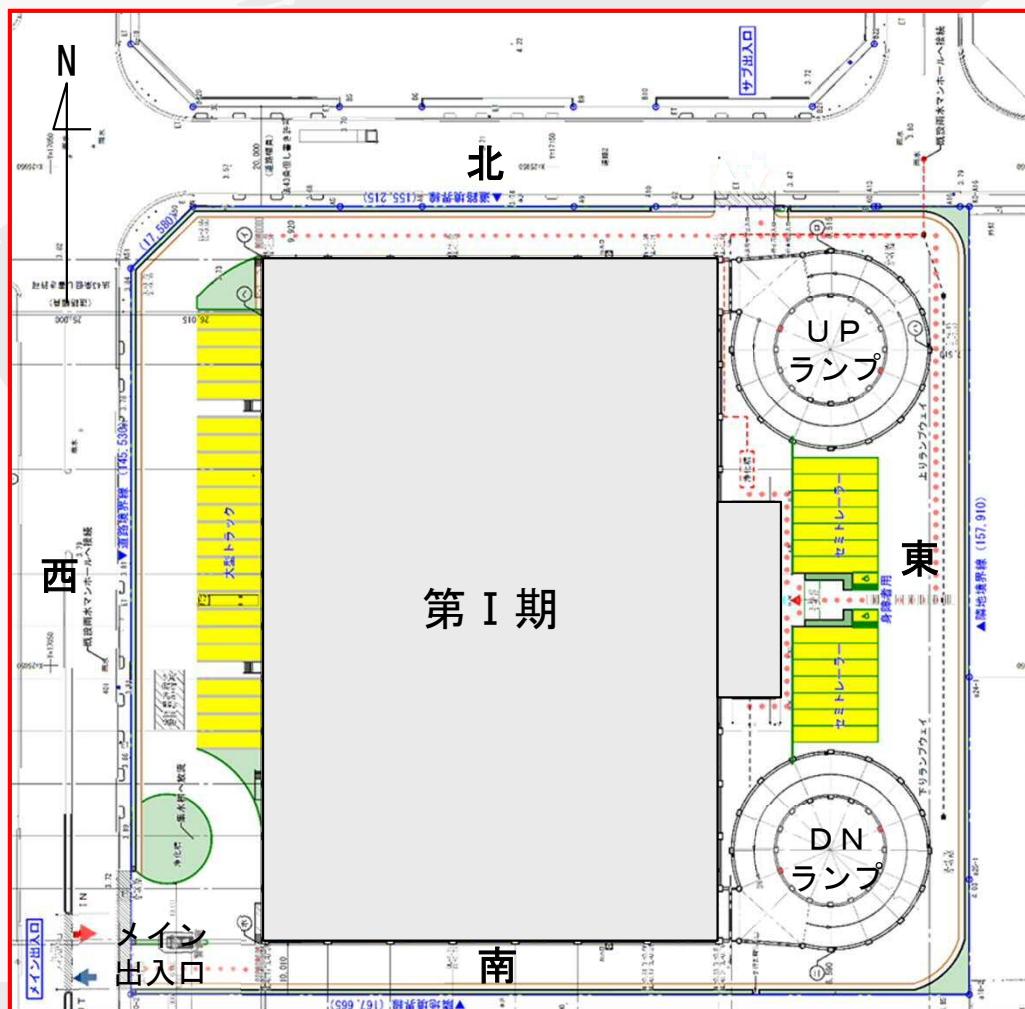
□那覇港と那覇空港を結ぶ「那覇うみそらトンネル」が開通したことでアクセスが向上しており、海上貨物と航空貨物とのSea and Airによる連携が進むと総合物流センターの需要は高まると予想される。



[参考:那覇港総合物流センター配置計画]

- ・西側に幅員25mの臨港道路、北側に幅員20mのふ頭内道路に接し南側は緑地(計画)を挟み海に面している約2.6haの敷地です。
- ・敷地四方に幅員約6mの周回できる敷地内通路を配置しました。また、歩道も設置し歩車道を分け、安全に利用できるよう計画を行っています。
- ・敷地境界沿いには、緑地帯を設け、周辺環境に考慮した計画を行っています。
- ・敷地東側に上がり専用ランプウェイと下り専用ランプウェイを配置し、安全な動線計画を行っています。

配置計画



那覇港総合物流センター 2019年5月1日開業

【概要】

- 港湾法に基づく港湾施設(保管施設)
- 構造
 - 物流棟 鉄筋コンクリート造地上3階建
 - 事務所棟 鉄筋コンクリート造地上7階建
- 専用区画(物流棟)
 - 約31,485平方メートル



国際コンテナターミナルから西面を撮影



(内装) 恒温恒湿庫



(内装) 超低温庫



(内装) 急速凍結庫

物流棟各階仕様	専用区画面積	テナント	取扱貨物(予定)
3階: ドライ専用	約10,495㎡	沖縄港運(株)、マルエー物流(株)、琉球物流(株)	食品、飲料、雑貨等
2階: 冷凍・冷蔵・ドライ	//	沖縄県黒砂糖協同組合、(株)沖縄急送、(株)琉球通運	沖縄黒糖、近海マグロ等
1階: 冷凍・冷蔵専用	//	(株)ニチレイ・ロジスティックス九州	各種冷凍冷蔵食品



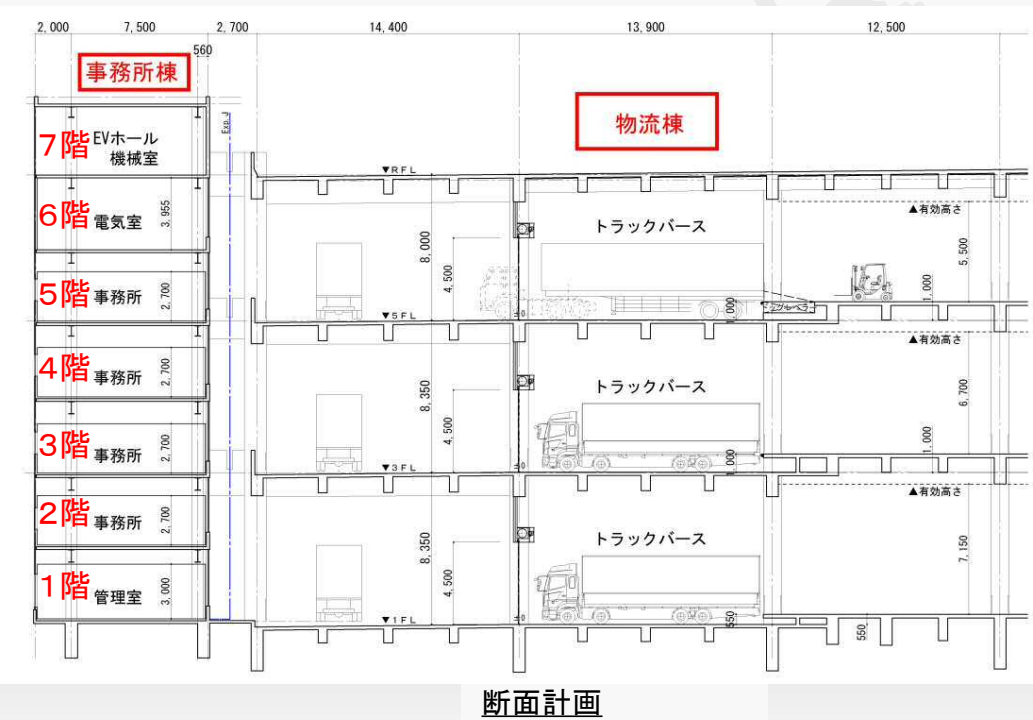
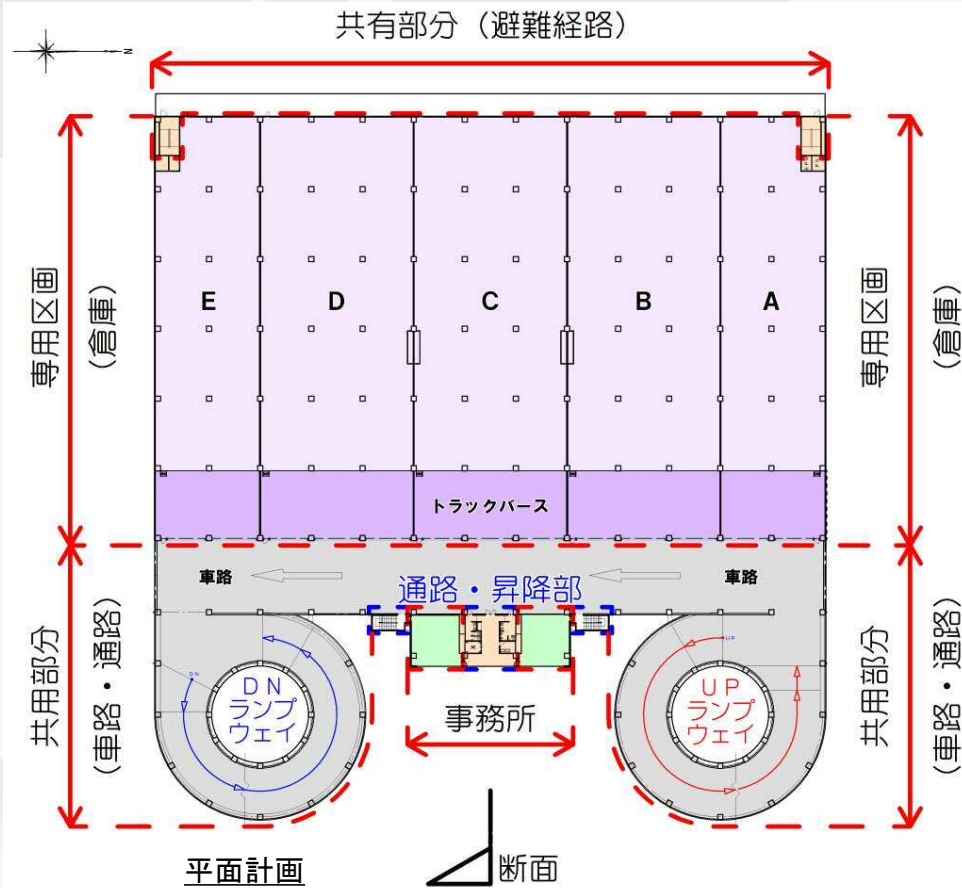
国内貨物取扱岸壁から東面を撮影

那覇港総合物流センター 平面計画

- 物流棟の専用区画は、1階部分を冷凍・冷蔵倉庫専用、2階部分を冷凍・冷蔵・ドライ対応、3階部分はドライ倉庫専用。
- 物流棟の各階専用区画の間仕切り壁は移動可能としており、複数の区画を専用することも可能。
- ランプウェイ及び車路を挟んで専用区画と事務所部分を配置。
- 各区画内の整備は、必要最小限とする「スケルトン貸し」、冷凍・冷蔵施設に必要な設備等も入居者によって準備。

物流棟各階仕様	面積	倉庫部床レベル
1階：冷凍・冷蔵専用	約10,495㎡	+550mm
2階：冷凍・冷蔵・ドライ	//	+1,000mm
3階：ドライ専用	//	+1,000mm

物流棟（各フロア5区画設置）	面積（㎡、坪）	
A、E区画	約1,629㎡	約490坪
B、C、D区画	約2,412㎡	約730坪
5区画合計	約10,495㎡	約3,180坪



【那覇港総合物流センターのコンセプト】

東アジアの中心に位置する那覇港の特性を活かし、
東アジアネットワークと国内ネットワークを繋ぐ国際物流拠点

【国際輸送】

- ・外貿コンテナ船
- ・航空機

【価値付加機能】

競争力の高い貨物を創出する機能

那覇港 ロジスティクス・ハブ

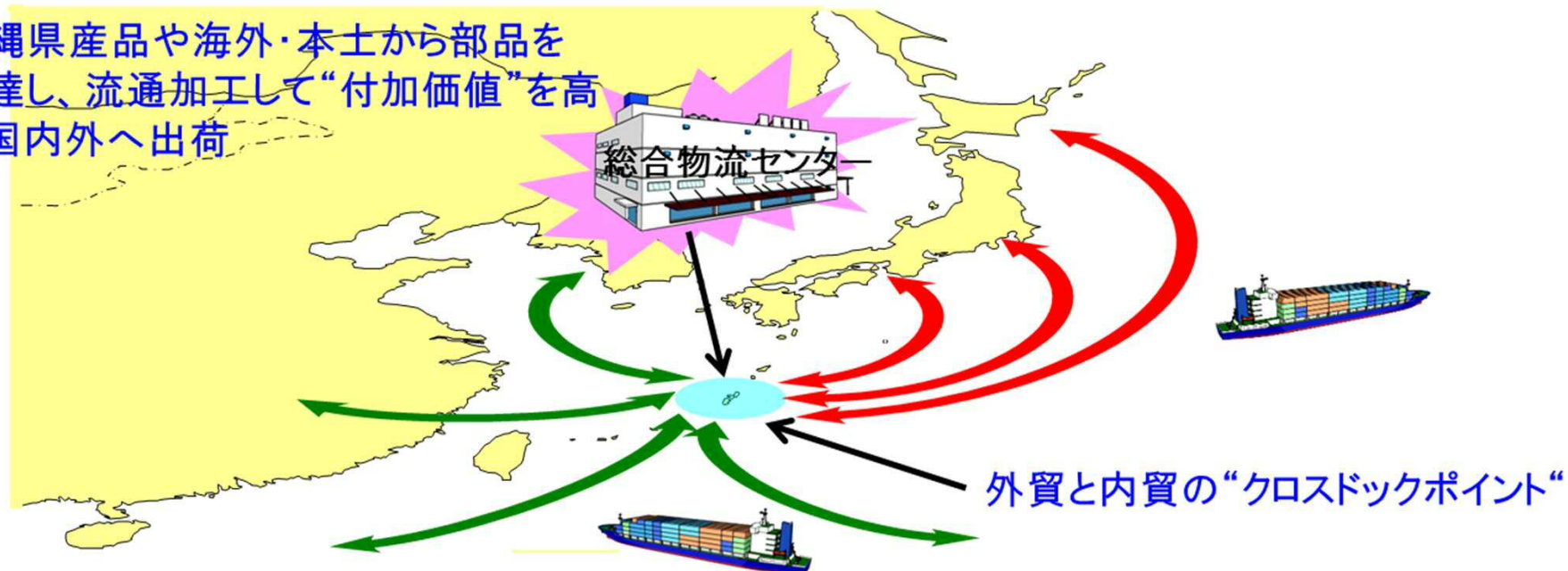
【物流高度化機能】

東アジアの物流結節拠点(クロスストックポイント)としての機能

【国内輸送】

- ・内貿定期船
- ・トラック
- ・航空機

沖縄県産品や海外・本土から部品を
調達し、流通加工して“付加価値”を高
め国内外へ出荷

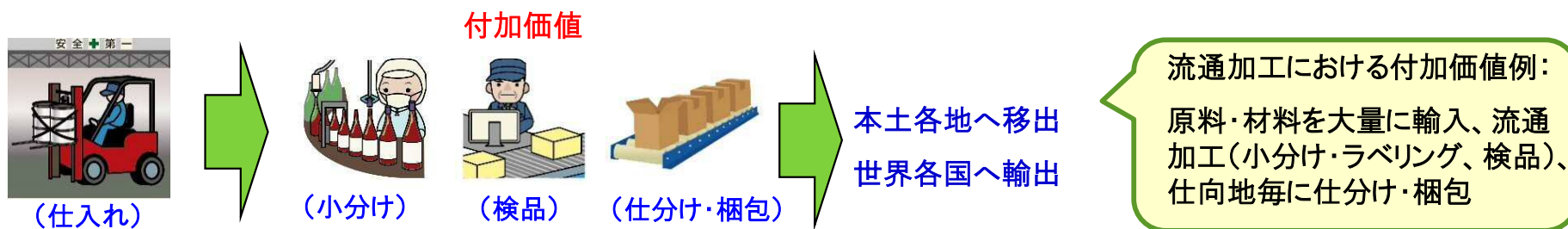


[那覇港総合物流センターの導入機能]

①物流の高度化：保管、積み替え、検査、混載



②付加価値の高い貨物を創出



那覇港総合物流センター運営事業 提案事業計画の概要(1)

応募者名		琉球プロジェクト[12社による企業グループ]	
組成及び役割分担	代表企業 [1社]	琉球海運(株)	(株)那覇港総合物流センター (SPC)
	構成企業 [3社]	(株)ニチレイロジグループ本社 那覇地域貨物運送協同組合 (株)沖縄日本管財	
	協力企業 [8社]	沖縄港運(株)、(株)沖縄急送、沖縄県黒砂糖協同組合、琉球物流(株)、琉球通運(株)、マルエー物流(株)、(株)ニチレイ・ロジスティクス九州、(株)日本プロパティ・ソリューションズ	
事業実施方針		安全・安心かつ持続可能な運営体制を基盤に、実績・経験ある企業が集貨・創貨に取り組み、中長期的なパラダイムシフトによる物流構造改革の実現を目指す。	
テナント導入計画	物流棟	15／15区画(100%)	
	3階	ドライ5区画(沖縄港運2区画、マルエー物流1区画、琉球物流2区画)	
	2階	冷凍冷蔵4区画、定温1区画(沖縄黒糖1区画、沖縄急送2区画、琉球通運2区画)	
	1階	冷凍冷蔵5区画(ニチレイロジ九州5区画)	
	配置イメージ	3階 沖縄港運(株)マルエー物流(株)琉球物流(株) 2階 沖縄県黒砂糖協同組合(株)沖縄急送琉球通運(株) 1階 (株)ニチレイ・ロジスティクス九州	

那覇港総合物流センター運営事業 提案事業計画の概要(2)

集貨計画	・県産品(青果物、黒糖)を集約し、輸出・移出。 ・県内向け輸入貨物(紙製品、プラスチック製品、食品等)を集約し、効率的に配送。 ・タイ・台湾発本土向け冷凍食品を、高雄港積み替えで本施設へ集約し、県外へ移出。 ・海外から本土経由で輸入される貨物(冷凍食品、食品(缶詰))を、那覇港直接揚げとする。
	品目:紙製品、プラスチック製品、食品、冷凍食品等
	集貨量(1年目):77,910フレトン(約4,330TEU※)
	集貨量(10年目):131,936フレトン(約7,330TEU※)、伸び率:69%
創貨計画	・県内青果物のパッキング・ラベル貼り等を行い、輸出・移出。 ・インドネシア、米国、台湾からの輸入貨物(缶詰、食品)を本施設にて仕分け、ラベリング等を実施して県内向け配送。
	品目:食品
	創貨量(1年目):4,537フレトン(約250TEU※)
	創貨量(10年目):7,823フレトン(約430TEU※)、伸び率:72%
物流の高度化	・海運及び県内陸運について、共同輸送、共同配送を主体的かつ積極的に推進。 ・事務、作業、車両、施設に対してIT技術や設備を活用。
出資計画	1億円(SPC資本金)
県内産業・ 県経済への貢献	・県内外荷主への事業機会の提供 ・県産品の競争力及びブランド力の向上 ・離島に対する供給量の安定化
雇用計画	出向・転籍:16名
	新規雇用:40名(常勤16、非常勤24)
	合計:56名

那覇港と国際物流拠点産業集積地域の位置関係

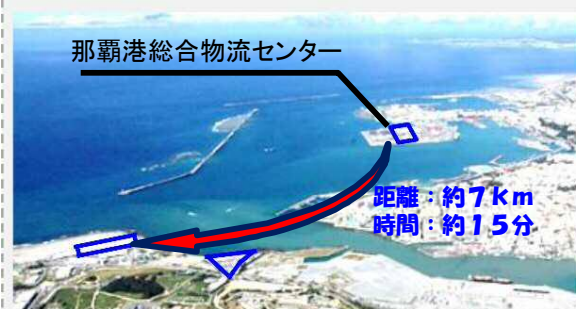
那覇港総合物流センターは、
「国際物流拠点産業集積地域」に含まれております。

当該地域では、税の優遇制度等を利用
することが可能です。

那覇港総合物流センターからの交通アクセス
⇒那覇空港 約7km 約15分
⇒うるま市旧特自貿 約30km 約45分

(参考)

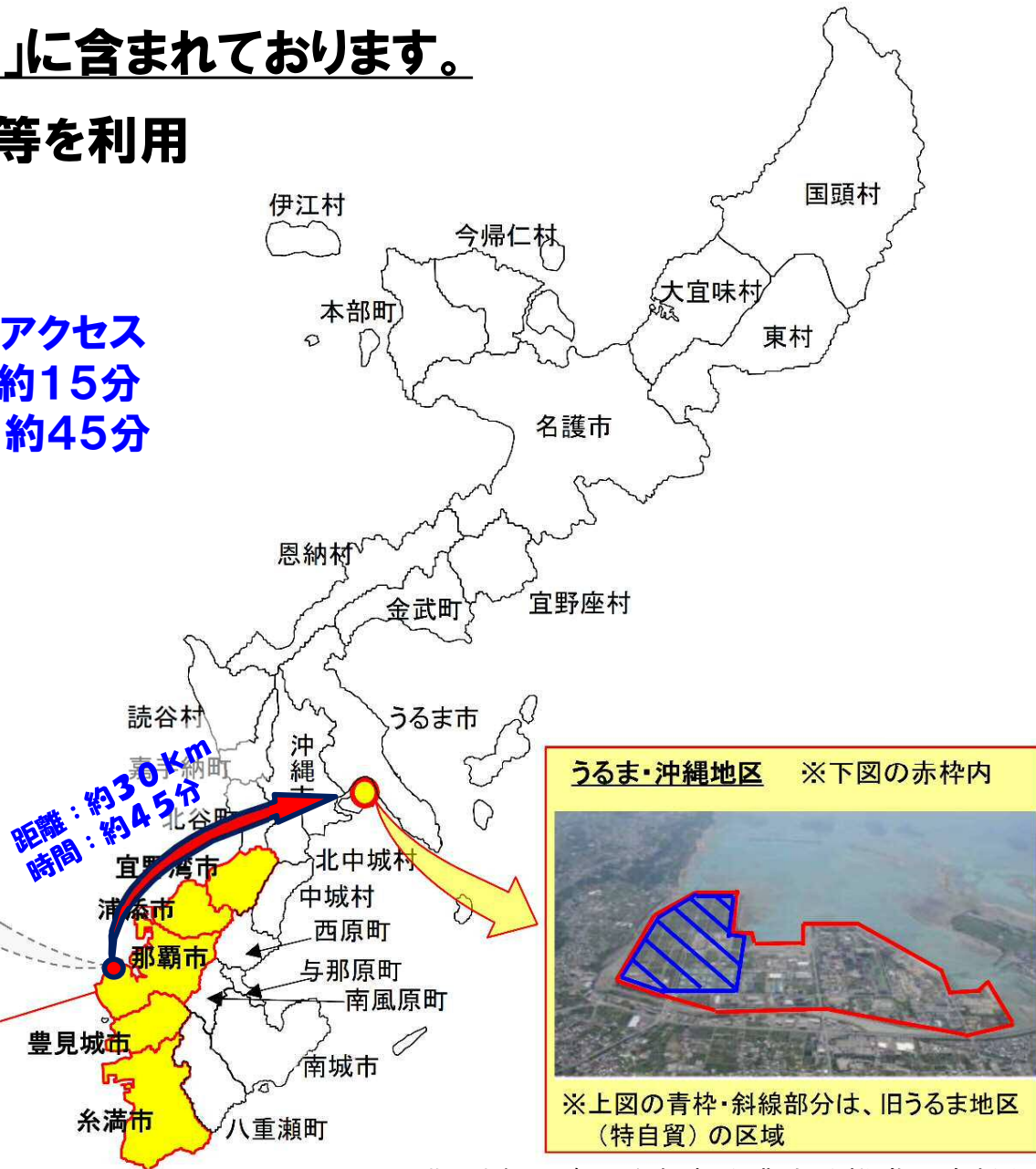
旧: 那覇地区・那覇空港地区・那覇港地区



※旧3地区の区域(上図青枠内)は、新たに指定した那覇・浦添・豊見城・宜野湾・糸満地区の区域に内包されている。

国際物流拠点産業集積地域は平成26年6月にエリアが拡大しました。

那覇・浦添・豊見城・宜野湾・糸満地区



うるま・沖縄地区 ※下図の赤枠内



※上図の青枠・斜線部分は、旧うるま地区(特自貿)の区域